2024 大阪社保協キャラバン

福祉施策の充実に向け 市に改善求める

堺市

協会も参加する大阪社会保障推進協議会（大阪社保協）が毎年取り組んでいる府内自治体との交渉が今年も開始された。8月9日、堺社保協が堺市に対して交渉を実施。協会から事務局が参加した。

マイナ紐づけ解除 広報で周知を

マイナ保険証について10月以降、マイナンバーカードと保険証の紐づけを切ることができるようになる。これを受けて、広報を保険者として実施するべきだと要望した。市は「国からの方針が示されていないため体制をとることができない」という回答に終始した。それに対して、「国の動きを待つのではなく自治体の制度としては実際に権利で活用できる部分があって、積極的に保険者として広報の体制をとる準備を今から始めるべきだ」と訴えた。

積み上がる基金 支援金へ

堺市は国民健康保険事業で約55億円の基金が積み上がっている。協会は、能勢町のように被保険者に還元する手立ては取れないかと要望した。基金の活用については、「適切かどうかを慎重に見極め、多種の動向を見たい」という答弁が繰り返しあった。答弁に対して、「実質の保険料を軽減するという観点のみならず、被保険者が医療にかからなくてもすむように健康増進を認知・活用できるようにするという観点から、支援金のような手立ては十分適切であり保険者として実施するべきだ」と訴えた。

短期証発行の手続き 柔軟な対応を

その他の問題提起としては、連休中の資格証明書を持参する方の受診について、短期保険証でないため10割負担になってしまい、短期保険証だと有効な高額療養費制度も活用できないため、100万円単位の負債を抱えることを懸念する声があがった。「閉庁している間も緊急窓口の設置・活用や、休日でなくても窓口に出向けない時にはICT等を活用して、柔軟に短期証発行の手続きができるように措置を取ってほしい」と訴えがあった。

寝屋川市

歯科健診で要望実る 負担が500円に軽減

大阪社保協が主催する寝屋川市交渉が8月20日取り組まれ、協会北河内地区から事務局が参加した。

歯科健診の自己負担軽減

寝屋川市の「成人歯科健診（歯科健診）」は、対象が30歳から5歳刻みで、70歳までの住民を対象に実施しており、2023年度まで受診者負担が千円と府内で最も高かった。協会は、これまで社保協キャラバンを通じて繰り返し負担金の引き下げを求めてきており、今年度から500円への引き下げが実現した。今後も更に負担金の引き下げや対象年齢の拡大を求めていく。

資格確認書の送付求める

健康保険証の廃止を巡っては、市国保課から「マイナ保険証を持たない方を含め、被保険者間で医療機関の受診にあたり、不利益が生じないよう、大阪府市長会を通じて要望してまいります」との回答があったの受けて、市の責任で確実に資格確認書（健康保険証）を届けるよう求めた。これに対し、国保課は「大阪府全体に合わせる」と回答、協会から重ねて、「保険料を支払っているため保険証相当のものを渡すことは保険者義務」と指摘、現在市民が持っている健康保険証の有効期限前に、確実に資格確認書を送るよう徹底を求めた。

このほか、高すぎる国民健康保険統一保険料について、被保険者負担を軽減する独自の対策や妊産婦の医療費助成の新設――などを求めた。

寝屋川市の2023年度歯科健診データ

検診名	対象年齢	自己負担
成人歯科健診	30，35，40，45，50，55，60，65，70歳（年度末年齢）	1000円⇨500円（70歳、生活保護世帯及び市民税非課税世帯の方は無料）
妊婦歯科健診	妊娠中で寝屋川市に住民票がある人	無料

昨年度の大阪社保協キャラバンでは、協会から寝屋川市に成人歯科健診の1000円の自己負担を下げるよう要請。市からは「パノラマを撮れるようにしているから費用を高くしている」と理由が語られ、検討すると回答がされていた。

バキューム講習

患者への快適性を心がけた実習

口腔機能の維持・向上を求めて

実習に臨む参加者

臨床学術部は8月4日チェアサイド講習会バキューム実習をとみもと歯科医院（港区）で開催し、11人が参加した。冨本昌之氏（協会副理事長）と衛生士3人が講師を務めた。

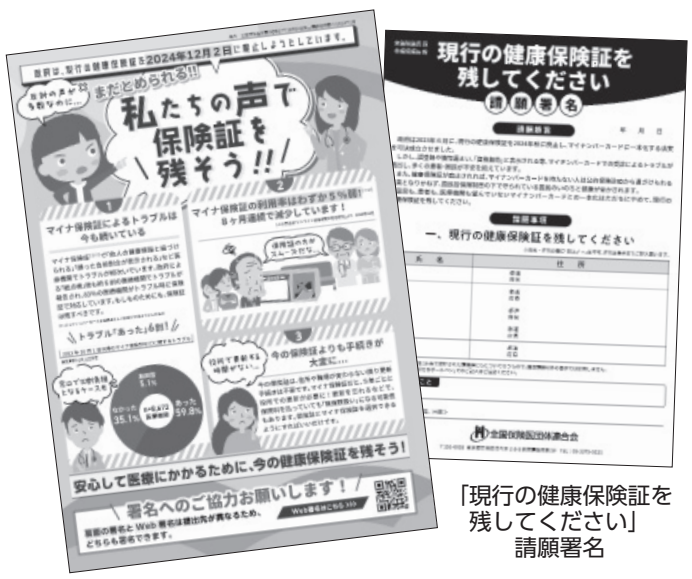
冨本氏は「歯科治療は変化しており、削って詰める治療から口腔機能管理へとシフトしており、痛くなってから来院するのではなく口腔機能の維持・向上を求めての来院が増加してくる。つまり、快適さが重要となる。助手さんには、バキュームにおいてもその快適性に心がけてほしい。週明けからの診療に活かせるよう、質問や相談して有意義な時間としてほしい」と冒頭に呼びかけた。

バキュームの基本操作や歯科の専門的な名称を映像で学び、3つの班に分かれ医師・アシスタント・患者のそれぞれを経験する相互実習を行った。実際にチェアを使い、バキュームの当て方・姿勢、禁忌部位をおさえ、バキューム位置の確認をしながら自身の苦手な部位の練習をした。

参加者からは、「歯科界が全く初めてなので右も左も分からなかったが、充分な実習時間でバキュームに自信を持てるようになった」「立ち方の基本から、疲れないバキュームの姿勢、ライティングまで学べて有意義だった」などの感想が寄せられた。

現行の健康保険証残して！運動強化キャンペーン

9月上旬に別途送付



「現行の健康保険証を残してください」請願署名

2024年3～6月末に実施

クイズハガキ「保険証を残そう」

◇自由意見欄の紹介◇

受付での業務を増やし、医院への負担を増やし、国民のストレスを増やしマイナスしかないです。本当に保険証が発行されないなんて現実的ではない。異常です　(56歳・歯科医師)
保険証の廃止は反対です。マイナカードは情報が正確でなかったり、毎回提示が必要なため、逆に不便だと思います　(25歳・受付)
今迄何不自由なく保険証を使ってきた。マイナ保険証にするメリットもわからないし、私たち年寄りには更新手続きなど面倒なことなく、今までの保険証を使わせてほしい　(自営業・78歳)
保険証をわざわざ廃止せずにマイナカードとの併用できるようにすればよい。国民皆保険制度を守るべきである　(会社員・47歳)

政府は2024年12月2日に健康保険証を廃止し、マイナンバーカードに一体化することを決めました。本当に健康保険証を廃止してしまっていいのでしょうか。医療現場の混乱を防ぎ、国民が安心して医療を受けるには健康保険証を存続させることこそ必要です。「現行の健康保険証を残してください」請願署名へのご協力をお願いします。追加のご注文は協会まで。